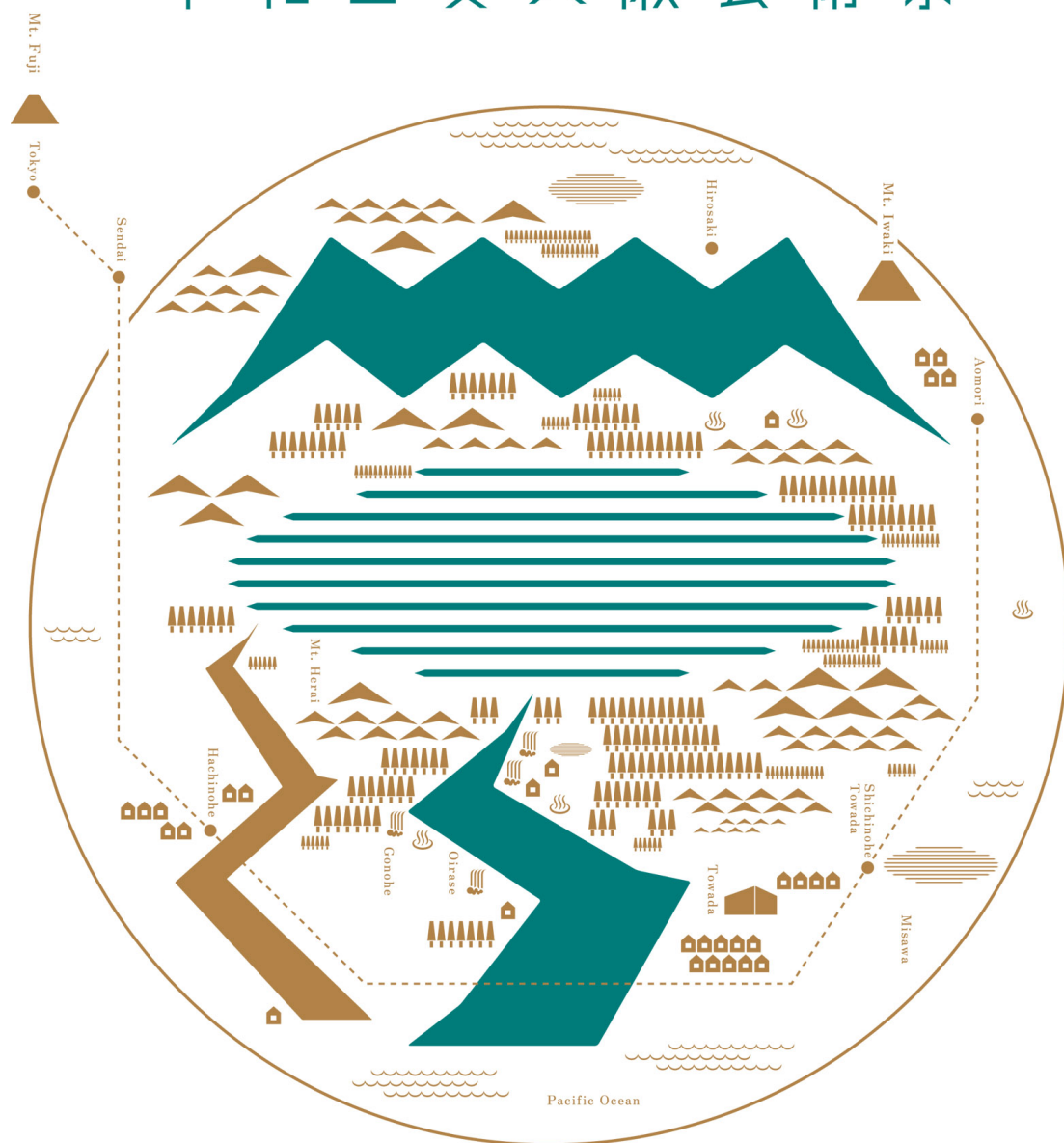


十和田奥入瀬芸術祭 プレスリリース vol.3
2013年7月2日

十和田奥入瀬芸術祭



S U R V I V E

この惑星の、時間旅行へ

日時：2013年7月2日（火）14:00～15:00
会場：3331 Arts Chiyoda にて

十和田奥入瀬芸術祭

SURVIVE — この惑星^{ほし}の、時間旅行へ

いくつもの「時」に出会うことは、この惑星の神秘と不可思議に触れることかもしれない。

一分一秒を争う、都市の生活があり、
一日を定める、太陽とこの惑星のつながりがあり、
四季が巡る、自然の摂理があり、
数年かけて形になる、人々の仕事があり、
数十年かけて育まれる、家族の愛があり、
百年千年かけて動く、地殻があり、
数万年ささやかに放たれる、光の痕跡があり、

そして、十和田奥入瀬には、
より長い時間をかけてこのようになった、生き物たちの群れがあり、四季によって違う表情を見せる。

「時」の旅は、わたしたちを、これからの十年、百年、千年、一万年へと跳ばすことだろう。
そしてそれは、人間の固い思考を超え、人と自然のつながりに近づくことなのかもしれない。

開催概要（予定）

芸術祭名	十和田奥入瀬芸術祭（とわだおいらせげいじゅつさい）
タイトル	SURVIVE（サバイブ）
キャッチコピー	この惑星の、時間旅行へ（このほしの、じかんりょこうへ）
会期	2013年9月21日（土） - 11月24日（日） ※月曜日休場（月曜が祝日の場合はその翌日）
主会場	第1会場 十和田市現代美術館 ほか 第2会場 水産保養所（旧湯治の宿おいらせ）、星野リゾート 奥入瀬溪流ホテル、奥入瀬溪流館、 十和田湖遊覧船 ほか
開場時間	第1会場 9:00-17:00／第2会場 10:00-16:00（ともに入場は閉場の30分前まで）
観覧料	セット券 2000円 予定（会場別のチケットも販売予定） ※高校生以下無料 （発売予定場所：十和田市現代美術館、水産保養所、ローソンチケット ほか）
主催	十和田奥入瀬芸術祭2013実行委員会（十和田市現代美術館、一般財団法人十和田湖ふるさと活性化公社、財団法人自然公園財団十和田支部、社団法人十和田湖国立公園協会、社団法人十和田市観光協会、奥入瀬温泉活性化協議会、十和田市）

開催目的

この度、十和田市は、十和田市現代美術館開館5周年を記念し、美術館を中心とした市街、奥入瀬、十和田湖を舞台に「十和田奥入瀬芸術祭」を開催します。

本芸術祭のテーマは「時」。

2011年3月11日に端を発する震災は、わたしたちの「時」の感覚を揺るがしました。「千年に一度」といわれる地震は、この「数百年に作られた」人間の世界に大きな衝撃を与えました。

一方で、ここ、奥入瀬・十和田湖には「数万年かけて」形づくられた複雑で多様な生態系があります。わたしたちの日々は、実は、数多の「時」に満ちているのかもしれません。

芸術は、古くローマ時代には「テクネー」といわれました。この元来「術」を意味する芸術をとおして、さまざまな「時」を十和田奥入瀬に展開し、広く国内外に、わたしたちの時代と芸術の関係、またその可能性を提示します。

- ・ 美術館開館5周年を記念して広域での芸術祭として開催し、市の情報発信の好機としていかします。
- ・ 市の観光振興の重点エリアである奥入瀬地区、十和田湖地区へ展開します。
- ・ 5年後、10年後、20年後の十和田奥入瀬の新しいイメージを描く実験を行います。

アーティスト・ディレクターからのメッセージ

時そのものに価値がある。様々な困難を超えて生きてきたその時の蓄積に意味がある。時は様々な自然を、物質を、人を、まちを熟成し、醸し、変化させる。その永遠と続く時の途上に僕らはいる。

しかし、どのような質の時にいるのか。それを自覚し、コントロールすることは難しい。

何かがつくられようと変化に向かう時は、希望や期待に満ちていて素晴らしい。その時に関わることができれば生きる事の意味が変化する。しかし、強い圧力によって時をコントロールされ、束縛され、自分の意志とは違う時を過ごすことは、絶望でもあり苦痛でもある。

日本社会において、自分の時の質に向き合う感性を身につける機会は、ほとんど奪い取られてきたのかもしれない。大量消費、貨幣経済の成長を強いられた社会構造の中ではそのような感性は社会悪だったのだろうか。

しかしそれでも、さらに超えて生き、その時を価値あるものへと変化させなければならない。これまで社会的に価値を認められていなかった意識の中に、次の時代を超えて生きるための多くの可能性が潜んでいる。そんなことを深め考えようとしている人々の態度と出会ってほしい。そんな芸術祭であればいい。

藤浩志（十和田奥入瀬芸術祭 アーティスト・ディレクター）



アーティスト・ディレクター 藤浩志（十和田市現代美術館 副館長、アーティスト）

1960年鹿児島生まれ。美術家。京都市立芸術大学工芸科在学中に演劇に没頭。空間や地域での表現に興味を持つ。同大学院美術研究科修了後、パプアニューギニア国立芸術学校講師。都市計画コンサルタント勤務を経て藤浩志企画制作室設立。国際展等の出品と並行して対話と地域実験を重ねる手法により全国各地の地域系アートプロジェクトの発生と展開に関わる。またそれぞれの現場で「つくる拠点」と「活動が発生する仕組み」を模索し、防災・環境・教育・地域整備にアーツの手法を持ち込み活動の連鎖を促す実験を重ねる。藤浩志企画制作室代表、NPO 法人プラスアーツ副理事長、十和田市現代美術館副館長。

キュレーター 小澤慶介



1971年生まれ。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ現代美術理論修士課程修了。NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]が開設する現代アートの学校MAD (Making Art Different) のプログラム・ディレクター。「paradise views 楽園の果て」(東京国際フォーラム、2004年)、「dreaming bodies 夢みる身体」(アサヒ・アートスクエア、2005年)などのビデオアートの展覧会のほか、「16時間美術館」(ヒルサイドテラス、AIT、スーパーデラックスほか、2007年)、「おきなわ時間美術館」(那覇市米町市場古民家ほか、2007年)、「環境・術」(ヒルサイドテラス、2008年)、守章「終日中継局」展(AIT、2012年)、泉太郎「たしかめる」展(AIT、2013年)などの実験的な展覧会企画を手掛ける。女子美術大学非常勤講師を兼任。

キュレーター 服部浩之



青森公立大学国際芸術センター青森(ACAC)学芸員、プロジェクトスペースMidori Art Center(MAC)住人。1978年愛知県生まれ。早稲田大学大学院修了(建築学)。愛知、東京、バリエロナ、山口などを経由して現在青森市在住。建築的思考をベースに、公共機関とオルタナティブスペースを自由に往来しながら様々なプロジェクトを企画運営し、場をつくり日常生活を創造的に拡張する試みを実践している。近年の企画に、アーティスト・100人の市民スタッフとつくりあげた、「Nadegata Instant Party《24 OUR TELEVISION》」(2010年)、通年のレジデンスプロジェクト「再考現学/Re-Modemologio」(2011-2012)、全長72mの巨大泥絵をメインに展開した浅井裕介個展「八百万の物語ー強く生きる、繰りかえす」(2012年)など。

芸術祭の構造と特徴

1. 展覧会と書籍で「時」を読み解く

美術館では、作品が表わす「時」、奥入瀬・十和田湖の地では、鑑賞者自身の身体を通じてその場所自体がもつ「時」の流れを経験。そして芸術祭にあわせて刊行される小説集では、奥入瀬・十和田湖の歴史や風土をものがたりとして経験します。

2. 場のコントラストをいかした展覧会

市街地にある現代的な展示空間の十和田市現代美術館から、大自然にある奥入瀬・十和田湖の展示空間へ。場の特性をいかしながら、さまざまな「時」の質感に巡りあいます。



水産保養所(旧湯治の宿おいらせ)

3. ジャンルを超えた作家が参加

美術家にかぎらず、詩人、小説家、演出家、音楽家などさまざまな作家が参加します。視覚芸術、文学、演劇、音楽、空間構成などの要素を取り入れながら、「時」を読み解いていきます。

4. 市民や次世代のアーティストにひらかれたゼミナール

奥入瀬・十和田湖の自然と向き合いながら、作家や地域住民とともに「時」というテーマについてさまざまな角度から話し合い、未来につなげていきます。

5. 紅葉から、初雪へ。自然の豊かな表情に触れる

ここ十和田市には豊かな自然があります。四季により表情を変える自然や豊富な温泉など、日本有数の観光資源を体感してください。

1、展覧会

■キュラトリアル・コンセプト

美術館では、芸術作品をとおしてさまざまな質感の「時」を表します。人間社会によって定められた時間と予測不可能な自然の営みの間にあるさまざまな「時」の感覚に触れることで、わたしたちが今いる地点を見つめ直します。

奥入瀬・十和田湖地域にある展示空間、十和田湖遊覧船や水産保養所では、視覚、聴覚、嗅覚などわたしたちの多様な感覚を刺激する、ひとつの舞台のような経験の空間として再生します。そこに漂う気配、移ろう光、ざわめく音などを静かに、そしてじっくりと経験する場がそこにあります。

■展覧会参加作家



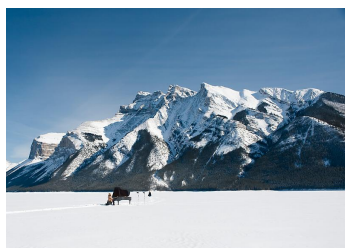
梅田哲也



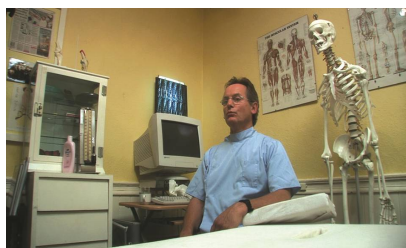
contactGonzo



志賀理工子



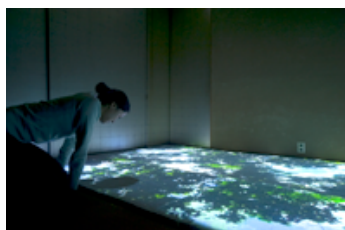
ラグナル・キヤルタンソン



マーカス・コーツ



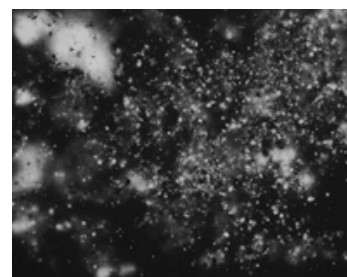
柴田健治



志村信裕



高山明 (Port B)



武田慎平



mamoru



宮永愛子



山本修路

■特別参加

①奈良美智



音楽にも造詣の深い奈良美智ディレクションによるちいさな音楽祭を実施します。奈良美智デザインのステージを囲み、さまざまなジャンルの音楽家を招いて、美しい自然の中、3日限りで行われるちいさなライブパフォーマンスをお楽しみください。

会期（予定）：2013年10月12日（土） - 14日（月祝）

会場（予定）：十和田市現代美術館、星野リゾート 奥入瀬渓流ホテル、市内ライブハウス

photo by Shin Morikita

②岡本太郎 —奥入瀬に生きる岡本太郎の遺作の再認識—



縄文の中に美を発見し、日本人のルーツについて問いかけ続けた岡本太郎。彼の作品が奥入瀬に残されています。とりわけ、彼が亡くなった3か月後の1996年4月に完成したアルミ合金の高さ10m 重さ7トンの大暖炉作品「河神」。そして1991年4月に完成した高さ8.5m 重さ5トンのブロンズ製の大暖炉「森の神話」。森と河、男性的な表情と女性的な表情を持つ2対の作品は現役の暖炉として星野リゾート 奥入瀬渓流ホテルで、その精神を発信し続けています。

2、十和田奥入瀬にまつわるものがたり集の発行

■エディトリアル・コンセプト

八甲田の噴火活動が湖をつくり、美しい溪流が生まれ、その先に人の営みがある。

湖／溪流／まちという、十和田奥入瀬の地理や歴史を特徴づける三つの場所を取材しながら、数万年の自然現象と数十年の人間の生を対比させつつ、管啓次郎を編者に迎え、気鋭の作家三名が新作小説を発表します。さらに、写真家・畠山直哉が撮り下した十和田奥入瀬の写真グラビアなどを加え、一冊の書籍としてまとめます。

タイトル：『十和田奥入瀬のものがたり（仮）』

管啓次郎 + SURVIVE committee 編

写真：畠山直哉

石田千、小野正嗣、小林エリカ ほか芸術祭参加作家 著

エディトリアル・ディレクション：影山裕樹（OFFICE YUKI KAGEYAMA）

発売日：2013年9月中旬

発行：青幻舎

価格：未定

販売場所：全国主要書店、および芸術祭会場



管啓次郎

3、ゼミナール

自然に学び、自らを学ぶゼミナールです。人は未来に向けて、自然にどのように向き合うのかを探ります。詳細は随時ウェブサイトでお知らせします。

■ Artist Talk & Discussion

芸術祭の会期中および準備期間中、参加アーティストがこれまでの活動や今後の展開について話し、語りあう場を公開します。



■ Nature & Arts Camp 2013

十和田湖畔にあるキャンプ場を利用して、2泊3日のアーツキャンプを2012年に引き続き開催します。自然や遊休施設跡などを巡り、参加者それぞれが活動の可能性を探るアーティストキャンプです。アーティストやコーディネーターに向けて全国に参加者を募集します。参加者の活動の記録やその時につくられたプランなどはドキュメント展の中で展示されます。



■超訳 びじゅつの学校 奥入瀬自然校

十和田市現代美術館で開催された展覧会「超訳 びじゅつの学校」の第二弾として、奥入瀬自然校を開校します。学校といっても先生もいなければ授業也没有。奥入瀬温泉郷の旅館跡や住居跡など、奥入瀬・十和田湖のさまざまな既存の拠点を利用し、多様な活動を行う部活動を随時募集します。部活動が主体的にワークショップや研究会、観察会、パフォーマンス等を展開します。

■ドキュメント展

会期後に芸術祭を検証し、将来につなげるためのドキュメント展を開催する予定です。

記録写真：小山田邦哉（写真家）

会期（予定）：2013年11月末～2014年1月中旬

ロゴ



十和田
奥入瀬
芸術祭

アート・ディレクション

加藤賢策（LABORATORIES）

1975年生まれ。アートディレクター／グラフィックデザイナー。2006年株式会社東京ピストル設立。2013年株式会社LABORATORIES設立。アートや建築関連のグラフィックや書籍・WEBなどを手がける。主な仕事に「大友良英 ENSEMBLES 2010:Resonance」（2011年、水戸芸術館現代美術ギャラリー）、「日常／場違い」（2010年）、「さわひらき Whirl」（2012年、以上神奈川県民ホールギャラリー）、「国東半島アートプロジェクト2012」（2012-2013年）、「六本木アートナイト2013」（2013年）など。

プレイベント

十和田奥入瀬芸術祭の開催に向けて、十和田市現代美術館を中心にさまざまなプログラムを発信し、芸術祭を盛り上げます。

■Arts Cube 奥入瀬 X 山田岳男 展

十和田市現代美術館では、美術館の特徴的な展示室をキューブにみたて、さまざまな地域へと展開するArts Cubeプロジェクトを継続的な取り組みとして行っています。芸術祭のプレイベントとして、Nature & Arts Camp 2012の参加者である写真家の山田岳男を招いて展覧会を行います。

会期（予定）：2013年7月14日（日）- 2013年9月8日（日）

会場：星野リゾート 奥入瀬溪流ホテル内 Arts Cube 奥入瀬

■明後日朝顔プロジェクト2013 明後日朝顔 十和田

「明後日朝顔プロジェクト」は、アーティスト日比野克彦氏が主宰するアートプロジェクトです。2003年に新潟県十日町市筋平（あざみひら）集落で始まり、11年目を迎える今年は、全国で27箇所の地域が参加し、地域間のゆるやかなネットワークを形成しながら、朝顔の育成を通して人の出会いや新しいコミュニケーションを生み出しています。

十和田では、十和田湖温泉郷として今年50周年を迎える焼山地区のみなさんと、焼山に拠点を構える「奥入瀬インフォメーション hakocco」を中心に、まちを花でいっぱいにしておもてなしの心を表現していきます。秋にはみのった種の収穫ワークショップを開催する予定です。

主催：奥入瀬温泉活性化協議会

オープニングイベント

十和田奥入瀬芸術祭オープニングではさまざまなプログラムを予定しています。

9月21日（土）オープニングセレモニー（十和田市現代美術館）

レセプションパーティー（奥入瀬エリア）

梅田哲也+コンタクトゴンゾによるパフォーマンス（予定）

管啓次郎朗読会（予定）

9月22日（日）ネイチャー・ランプリング

アサヒアートフェスティバルシンポジウム

関連イベント

アサヒ・アートフェスティバル主催による地域アートプロジェクトについて議論するシンポジウムを開催します。

会期（予定）：2013年9月22日（日）

会場（予定）：十和田市現代美術館

アクセス

会期中、会場を巡るシャトルバスの運行を予定しております。詳細はHPをご覧ください。

十和田市現代美術館まで

新幹線：東京駅→七戸十和田駅 約3時間20分／東京→八戸駅 約3時間

七戸十和田駅から美術館まで十和田観光電鉄バスで約40分

八戸駅から美術館までJRバス東北（おいらせ号）バスで約40分

飛行機：羽田空港→三沢空港／青森空港 約1時間15分

三沢空港から自動車で約40分／青森空港から自動車で約1時間30分

奥入瀬溪流まで

八戸駅からJRバス東北（おいらせ号）で約1時間20分

美術館前からJRバス東北（おいらせ号）で約45分、十和田観光電鉄バスで約50分

三沢空港から自動車で約1時間20分／青森空港から自動車で約1時間30分

十和田湖まで

JRバス東北（おいらせ号／みずうみ号）で「焼山バス停」から「子の口バス停」まで約30分、または「十和田湖バス停」まで約45分

十和田湖遊覧船で「十和田湖（子の口）」⇔「十和田湖（休屋）」約50分

ボランティア募集

十和田奥入瀬芸術祭を応援し、一緒に盛り上げてくださるボランティアスタッフの方々を随時募集しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

Arts Towadaについて



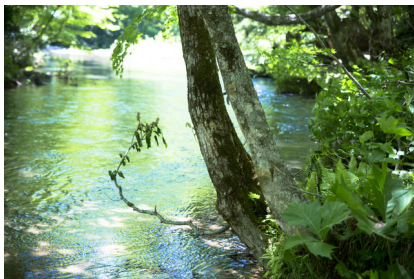
近年、省庁再編による国の事務所の統廃合や合同庁舎整備に伴う出先機関の転居などにより、市のシンボルロードである官庁街通りに多くの空き地が見られるようになりました。

そのため、十和田市ではより魅力的で美しい官庁街通りの景観をつくり出すとともに、未来へ向けた新しいまちづくりの一環として「Arts Towada」計画に取り組んできました。

この計画は官庁街通りという屋外空間を舞台に、通り全体をひとつの美術館に見立て、多様なアート作品を展開していくものです。このような取り組みは世界でもまれな試みです。またアート作品に加えて、十和田市の歴史や美しい自然、そして地域のもつ活力を引き出し未来へつなげていくような仕掛けを随所に盛り込むことで、十和田市を個性あふれる『アートの街』『感動創造都市』として国内外の多くの人々に印象づけることを目指しています。その中核施設となる十和田市現代美術館（設計：西沢立衛）は2008年度に開館、引き続き美術館向かい側のアート広場の整備を行いました。

十和田市について

2005年1月、新設合併により誕生した十和田市は、青森県の南東部中央に位置し、区域の一部は十和田八幡平国立公園に含まれ、公園の中には、国の特別名勝および天然記念物に指定されている神秘的湖「十和田湖」や千変万化の流れを織りなす「奥入瀬溪流」、秀峰「八甲田」などの豊かな自然を有するとともに、県内トップクラスといわれる安全安心でおいしい農畜産物の生産地帯や、「近代都市計画のルーツ」といわれる整然と区画された「市街地」で形成されています。人口は、約6万5千人（平成25年5月末現在）、行政区域面積は725.67km²と広大な面積を有します。



奥入瀬について

国の特別名勝・天然記念物に指定されている奥入瀬。十和田湖から流れる唯一の川、奥入瀬川は14km北上し、焼山で向きを変え、太平洋に注いでいます。全長およそ70km。そのうち14km間が奥入瀬溪流と呼ばれる景勝地で、日本唯一の溪流遊歩道を有しています。

明治の文人 大町桂月が「住まば日本（ひのもと）、遊ばば十和田 歩きや奥入瀬三里半」「右ひだり桂もみぢの影にして 滝を見る目のいとまなきかな」とその美しさをたたえています。流れは瀬となり奔流となって変化に富み、両岸には十和田火山が噴火した溶岩を主とした岩がそそり立ち、断崖には十数条の滝がたがっています。溪流を挟んでカツラ・ナラ・トチ・ブナなど多様な種類の樹木が茂り、林床にはシダが生育し岩も苔むしています。秋の紅葉時期もすばらしい眺めです。

十和田湖について



青森県と秋田県の県境にあり、およそ3万年～2万5千年前の火山の噴火口により原型ができた二重式カルデラ湖です。高い透明度を誇る紺碧の湖は紅葉、冬景色と四季折々の姿をうつし、訪れる人々を魅了しています。面積は61.1 km²、周囲46 km、湖面の標高400m、最大水深は327mあり、深さは日本で第3位です。湖周辺には、ブナやカツラなどが広がり、野生生物も生息しています。「休屋」を起点に、県境にかかる「両国橋」から高村光太郎作「乙女の像」がある「御前ヶ浜」まで完備された遊歩道からは、四季折々に美しい十和田湖を眺めることができます。もともと十和田湖には魚は生息していませんでしたが、1903年、和井内貞行が北海道支笏湖のヒメマスを放流したことをきっかけに定着し、十和田湖の特産品となりました。

十和田奥入瀬芸術祭 実行組織

実行委員会 会長	小山田久（十和田市長）
実行委員会 副会長	坂戸勝（十和田市現代美術館 館長）
アーティスティック・ディレクター	藤浩志（十和田市現代美術館 副館長、美術家）
キュレーター	小澤慶介（NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]） 服部浩之（青森公立大学 国際芸術センター青森 学芸員）
エディトリアル・ディレクション	影山裕樹（OFFICE YUKI KAGEYAMA）
アート・ディレクション	加藤賢策（LABORATORIES）
事務局長	新居音絵（十和田市現代美術館/ナンジョウアンドアソシエイツ）
広報	市川靖子
アドバイザー	森司
広報アドバイザー	立木祥一郎（tecoLLC）

クレジット

梅田哲也 《待合室》、オオタファインアーツ、東京 2012

contact Gonzo expert from video work "the shelters" 2008

志賀聖江子 螺旋海岸より ©Lieko Shiga

ラグナル・キヤルタンソン The End - Rocky Mountains, 2009 five-channel video projection, colour, sound, loop. Courtesy of i8 Gallery, Reykjavik and Luhning Augustine, New York. Produced in collaboration with The Banff Centre, Canada and the Stephan and Adriana Benediktson Fellowship for Icelandic Artists.

マーカス・コーツ Dawn Chorus Video stills composite 7 channel video installation duration: 28mins (looped)

Commissioned and produced by Picture This, UK Funded by Wellcome Trust

柴田健治 526307329, 2013

志村信裕 pierce 2008 photo by Ken Kato

高山明 撮影江森康之

武田真平 痕 #7, 二本松城 2012年

mamoru 《etude no.36 乾いた水に土を》、「再考現学」、青森公立大学国際芸術センター青森 (ACAC)、2011 写真：下道基行、提供：国際芸術センター青森

宮永愛子 そらみみみそら 2005 写真：畠山崇 ©MIYANAGA Aiko Courtesy Mizuma Art Gallery

お問い合わせ

十和田奥入瀬芸術祭2013事務局（十和田市現代美術館内）

青森県十和田市西二番町 10-9 tel 0176-20-1127 fax 0176-20-1138

email press@artstowadaoirase.jp

<http://artstowadaoirase.jp>